

会 議 録

1 会議名

第1回上越市子ども・子育て会議

2 議題（全て公開）

(1) あいさつ

(2) 委員紹介

(3) 議事

ア 上越市子ども・子育て会議について

イ 上越市子ども・子育て支援総合計画事業における令和2年度進捗状況
及び令和3年度取組内容について

ウ 認定こども園への移行について（報告）

エ その他

3 開催日時

令和3年5月25日（火）午後1時30分から午後3時00分

4 開催場所

文化会館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：平澤会長、安藤副会長、深井委員、松崎委員、熊田委員、柳澤委員、
武石委員、山田委員、遠藤委員、網谷委員、飯塚委員、阿部委員、久
保田委員、柳委員、岩井委員、永井委員

・事務局：こども課 米山課長、八木副課長、曾根係長、武藤主事、木村主事

・関係課：健康づくり推進課 田中参事

保育課 小山課長

すこやかなくらし包括支援センター 柳澤次長

学校教育課 水澤参事、小林副課長

8 発言内容

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介
4. 議事

①上越市子ども・子育て会議について

八木副課長：資料 1、2 により説明

(質疑応答なし)

② 上越市子ども・子育て支援総合計画事業における令和 2 年度進捗状況
及び令和 3 年度取組内容について

米山課長：資料 3 により説明

岩井委員： 新型コロナウイルス感染症対策で、一部未実施の事業がいくつかあるとの説明があった。質問の内容は異なるかもしれないが、妊婦が新型コロナウイルス感染症に感染したときの影響の有無について知りたい。また、市で妊婦の感染を確認したときに、どのような対策をとってきたのかについて、説明していただきたい。

田中参事： 妊婦への感染症の影響について、国でもその影響がどのようになるかということに対しての知見は出していないため、市もその知見については持ち合わせていない。新型コロナウイルス感染症に感染した妊婦に対しての市の対応については、感染症にかかった方が誰であるかということは、市では把握できない。感染症陽性者への対応は、新潟県の業務になっており、県の保健所が対応しているため、市としては承知していない。

柳委員： 23 ページの放課後児童クラブの数字に関して、令和 2 年度の実績が 2,140 人というところで、見込みに対してかなり多いという印象がある。増えていることに対しての分析だったり、なぜ

増えたのかお聞きしたい。また、場所の確保をしたとの説明であったが、今までも放課後児童クラブの改善について意見を伝えてきたが、その際に場所がないとの話をされていたかと思うが、どのように改善されたのか。

小林副課長：利用人数について、通年利用と緊急一時利用も含めた受入れ数となっている。通年利用者数では、令和2年度当初は2,056人いたが、コロナの影響から1,600人まで減り、そのあと少し落ち着き、1,800人まで増えているという状況であり、今年度も1,900人の児童から利用いただいている。利用場所については、コロナを踏まえ、クラブ室のみではなく、学校の空き教室や特別教室をお借りしながらクラブ運営をし、子どもたちが密にならないように対応している。また、国の交付金を活用し、コロナ対策の対応をしているところである。

柳委員：人数が増えているので、抜本的な改革として、空き教室を今後使っていくことも視野に入れながら検討していくとよいかと思うが、そのような考えはあるか。

小林副課長：学校については、教室が空いていれば、お借りしていくということで、学校と協議を進めている。

柳委員：あわせて、夏休み、冬休み、春休みの長期休みについて、学校の空き教室であったり、グラウンドであったり、体育館であったり、空いていれば使わせていただけると嬉しいと思っている。検討をお願いします。

小林副課長：夏休みについては、子どもたちが朝から児童クラブを利用するため、飽きないように体育館での活動や、クラブによっては外での活動をしている。支援員の目が届く範囲で対応していく。

岩井委員：ジョイカードは本当に良い事業で、第三子を授かるということが、いかに大切かとのことかと思うが、それを進める上で、ジョイカードは上越にとって必要不可欠だろうと考えている。ただ、第三子を授かった家庭に対しての支援について、上越市にもう少しあってもいいのではないかと思う。広報上越6月号の人口

を見て、人口減少が進んでいると感じた。少子化と、人口減少、高齢化が同時に来ている。人口減少は、市の活性化どころではなく、経済産業すべてにわたって沈滞化していく。それを防ぐためには、このジョイカードを充実させるとともに、もう一つ何か考えていかなければいけないと思う。児童手当等があることは承知しているが、第三子やその家庭に対する支援を、もう少し充実したらどうかと思うがいかがか。

米山課長： 子育てジョイカードについては、資料 7 を皆さんに当日配布しており、この後意見をお聞きしようと思っていたところである。子育てジョイカードは、3 人以上の多子世帯への経済的な支援という面と、子どもは地域の宝だという意識を地域の皆さんの中で醸成していただくという面で、協賛企業の全面的な協力によって行っている事業である。少子化対策について、この子育てジョイカードも含めて、総合的にどうしていったらよいか、しっかりと検討して参りたいと思う。今ほどいただいたご意見を踏まえ、別の施策も合わせながら総合的に考えていきたい。

岩井委員： 今ある制度で、多子世帯への支援があれば教えていただきたい。

米山課長： 児童手当や児童扶養手当等、いろいろ組み合わせながら支援しているが、独自での多子世帯への支援はジョイカードのみとなる。そういった面も踏まえながら、今後検討して参りたい。

阿部委員： 15 ページの若者ほっとライン Fit のことについて、Fit が開設して1年経ったが、1年経ってどのような状況であるのか、当市の引きこもりについて、今後どんなふうに対応をしていくのか、展望を教えていただきたい。

小嶋課長： Fit については、昨年5月に若者の居場所として教育プラザの中に常設した。令和元年度は、4人が在籍しており、定期的ではないが、通える日に通ってきて、就活や自分の興味ある学習等についていろいろ調べたり、指導員に相談したりしながら、通所していた。そのうち、2人については、進学や転学している。令和2年度は10人が通所しており、Fitに来ることが目的とな

っている方もいたり、就職や学校への復学に向けての勉強をしたり、仲間同士で卓球をしたりするなどそれぞれの過ごし方をしている。また、ひきこもりや不登校の方の保護者を対象とした「親の会」を年に5回ほど計画しており、去年は新型コロナウイルスの関係ですべて実施できなかったが、保護者への支援も実施している。今年度については、5月に第1回目の「親の会」を実施しており、12～13人ほどの保護者が来て、意見交換や個人的な相談をされた。

③ 認定こども園への移行について（報告）

小山課長：資料4～6により説明

（質疑応答なし）

④ その他

子育てジョイカード事業について

米山課長：資料7により説明

柳委員： 子どもが3人いるので利用しており、毎年届くのを楽しみにしている。スーパーマーケットでの割引が大変ありがたく、数百円引かれるのを楽しみにしている。また、子育て世代の間でもよく情報交換をしている。ジョイカードが使える企業が増えればありがたいと思う。

深井委員： 1人、2人しか子どもがいない人たちには、ジョイカードの情報があまり届いていない。もう1人産んでもいいと思えるようなものとして上越市にはジョイカードがあるということを、もっと宣伝していくといいのかなと思う。

米山課長： 3人以上の子どもがいる方には、使っていただいて、十分に認知されているかと思うが、それ以外の方にはなかなか周知する場もなく、店舗には市が配布したポスター等貼っていただいたりもしているが、あまり認知されていない部分もある。私どもも周知は課題だと思っており、いろんな方法、知恵を絞ってやっ

ていきたい。

永井委員： 協賛企業について、地域的なバランスはどうなっているのか。

米山課長： 事業所の数、店舗の数は圧倒的に合併前上越市が多いというのは事実である。ただ区の方も、登録されている企業はそれなりにある。実際に利用されているところは、やはり合併前上越市のスーパーマーケットなどにかなり集中しているという実態がある。13区は、店舗はあるけれども実際にはあまり使われていないのかなと思っているので、その辺りも踏まえながら考えていきたいと思う。

岩井委員： 割引率であるが、各企業、事業所によって違うのか。それとも一律に決まっているのか。例えばこの制度により、企業の方で収入減になっているということがあった場合、企業は登録を辞退しかねないので、市で調整をするのかを教えてください。

米山課長： 割引率やサービスの内容であるが、市の方では一切定めておらず、それぞれの協賛店舗の方で、収支のバランスを考えたりいろんなことを考えながら独自に設定をしている。また、収入の減について、割引をしているため負担にはなっているのは間違いないが、市の方では支援をしないけれども、自由にやっただけという形でやっている。実は、毎月の利用者数であるとか、収入に対する減であるとか、そのようなことは報告をいただいていない。事業所の方にかなり負担になるということも考慮して、当初からそういったもの一切求めない代わりに自由にやってほしいという形で進めている。今回企業へのアンケート行い、いろんなことが初めてわかってきた。このコロナ禍で、事業者の方で、何かしらインセンティブがあれば、それらを踏まえながら、今後の課題として、一緒に考えていきたいと思っている。

岩井委員： 例えば、一律の割引を達成するために、市の方で援助することは全然考えていないのか。

米山課長： これまでは考えていなかったもので、今後いろんなことを想定し

ながら考えていきたいと思う。

安藤副会長：子どもの多い家庭の経済的負担を支援するという趣旨でのジョイカードと認識している。先ほどの人口減少を食い止めるためという趣旨や、子どもは地域の宝という認識を高めていくという趣旨からすると、1人であっても、共働きでありながら、子どもを産み育てることも大変である。子どもがいることをみんなが喜んでくれる地域にしていくというような事業と、本当に子どもがたくさんいる多子世帯の経済的支援をしていくという事業で、アピールの仕方を分けて考えることもできるかと思う。実際に子どもが小学生だった時に、公共施設を利用する際に土日の優待カードがあったと思うが、あれは、子どもがいろんなところで学ぶことを歓迎してくれていることを感じる事ができたので、そういうものをもっと同時にアピールしていくこともできるのかと思う。

米山課長：確かに多子世帯への経済支援ということで15年やってきたところだが、今ほど言われたように、子どもが1人、2人であっても、同じ部分はある。今、一度立ちどまって事業を見直す時期だと思っている。目指す方向は同じだと思うので、視点を変えながらアプローチしていくのも良いと思っているため、そういったことも踏まえて検討していきたい。それからトキっ子クラブについて、新潟県内を対象とした同じような事業であり、もともと県の方で始められたと聞いている。トキっ子クラブは、年会費や登録料といった名目で、毎年、協賛店舗からお金をいただいおり、そういった中で事務局で財源を使いながらPRをしている。市のジョイカードは、全く無料でやっている分、PR面が弱いということもある。その辺も踏まえながら、繰り返しになるが、考えていきたいと思う。

9 問合せ先

健康子育て部こども課企画管理係 TEL：025-526-5111（内線 1729）

E-mail : kodomo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。